

自転車安全利用教育プログラムの策定に向けて

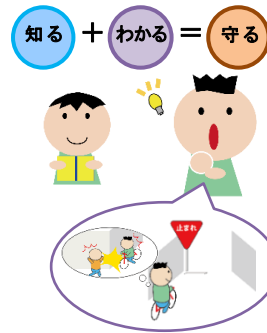
1. 目的

① 目的

自転車の基本的なルール・マナーの周知・徹底

最終的に目指す自転車利用者の姿

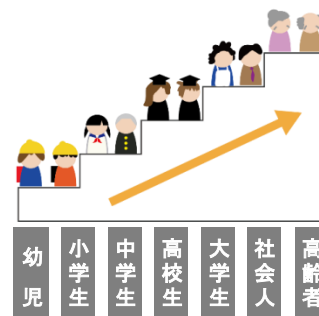
自分自身で危険と安全の本質を理解し、自分や他者の安全のために、自転車の安全利用を実践できる



② 考え方

生涯学習の視点に立ち、戦略的に実施

- 子どもからお年寄りまでを対象とした、ライフステージに合わせた体系だった自転車安全教室や啓発の実施
- 関係機関や地域・企業等と連携



京都市等が実施する、自転車安全教室を中心とした安全利用教育の推進のための取組を整理

- 各取組を体系的に取りまとめ、全体像を把握
- 各取組の内容や役割・ポイント、取組の効果や課題等を整理し、取組事例集を作成

取組事例集を中心とした「自転車安全利用教育プログラム」の策定

2. 構成

- プログラムの目的、ライフステージごとの学習ポイント、自転車安全教室の取組事例集などを分かりやすく整理する。
- 事例集は、取組ごとに、概要、役割、効果、意見や、安全教室における講師からの一言などについて、統一したフォーマットで作成する。

■ 構成（案）

- はじめに
- 背景・目的
- 京都・新自転車計画（関連施策）の概要
- 自転車利用時の基本的なルール

適宜、京都市作成の冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」の内容などを盛り込む



- ライフステージごとの学習ポイント
- ライフステージに合わせた教育内容、事業一覧
- 取組事例集
 - 京都市が実施している教育事例
 - 京都市以外が実施している教育事例



紙面構成（案）
事例集イメージについては、次頁以降を参照。

教える側から身につけてほしいことや教えるうえで注意していることなど



プログラム名: 「見て分かる！」自転車安全教室

対象: 幼児 小学生 中学生 高校生 大学生 社会人 高齢者
 その他

事業主体: 京都市 建設局 自転車政策推進室

市 府 国 府警 その他

実施回数: 8回 参加数: 2,320人

その他 ※29年度実績・11月13日現在の数値

特記事項: (内訳 市立中学校: 7回・1,830人, 市立高校: 1回・490人)

1.プログラムの概要

①取組のねらい

- ▶ 学校周辺の自転車事故発生箇所や危険箇所の共有
- ▶ 自転車のルール・マナーの周知
- ▶ 自転車で事故に遭わない・起こさないための安全な乗り方の教示



②取組の形式・内容

- 講座形式 (プロジェクターを使ってスクリーンに投影, パワーポイント)
- 写真や動画を使って以下の自転車のルール・マナーや安全利用について説明。
 - 京都・新自転車計画の概要
 - 学校周辺の自転車事故発生箇所や危険箇所とその要因
 - 自転車のルール・マナー
 - 自転車の安全な乗り方 など

2.プログラムの特徴

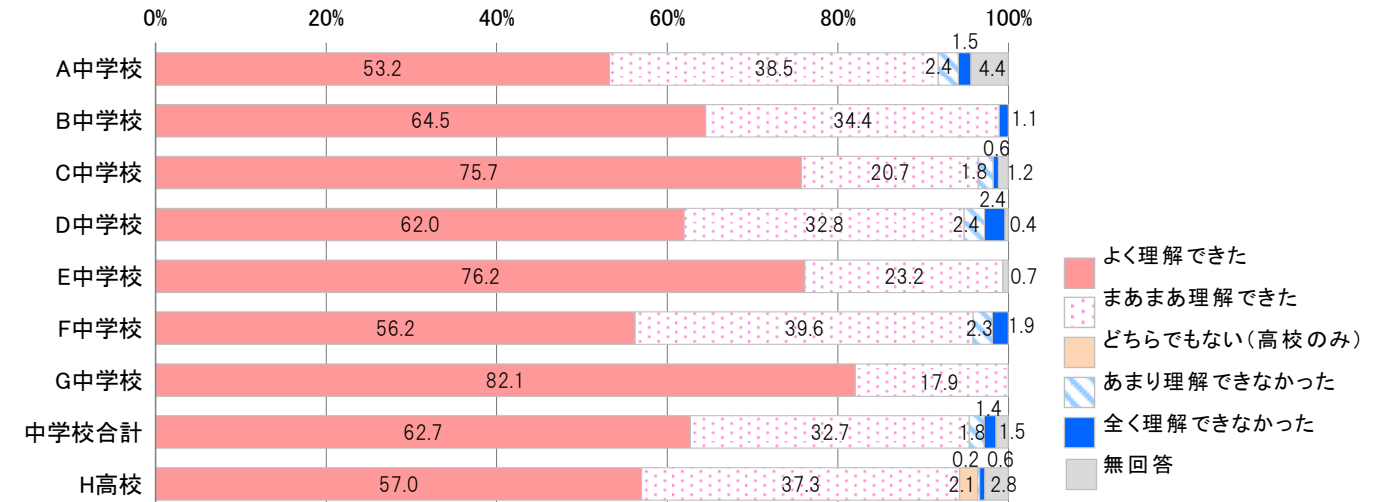
- 自転車のルールを「規則」だから「義務」だからという視点だけでなく、「何が危ないのか」「なぜ危険なのか」「どのように走ればよいのか」という「なぜ」「どうして」の視点をもって、写真や動画を用いて分かりやすく説明している。
- 「自分がどう行動するか」を伝える、「相手がどう行動しそうか」を予測するために、他者(自転車だけでなく、自動車のドライバー、歩行者等)とのコミュニケーションの重要性についても強調して説明している。
- 地域それぞれの交通事情や道路状況、事故状況に応じた、実践的な内容に重点を置いており、学校周辺の危険箇所や事故発生箇所などを地図と写真で示すため、生徒が身近な問題として捉えやすく、記憶にも残りやすい。
- 学校周辺の危険箇所や事故発生箇所などを示すために、講師が事前に学校の先生や所轄警察署等から自転車事故の情報を収集し、現地を観察・分析して写真を撮影するなど、地域密着型の内容として説明資料を作り込んでいる。



3.プログラムの効果・意見

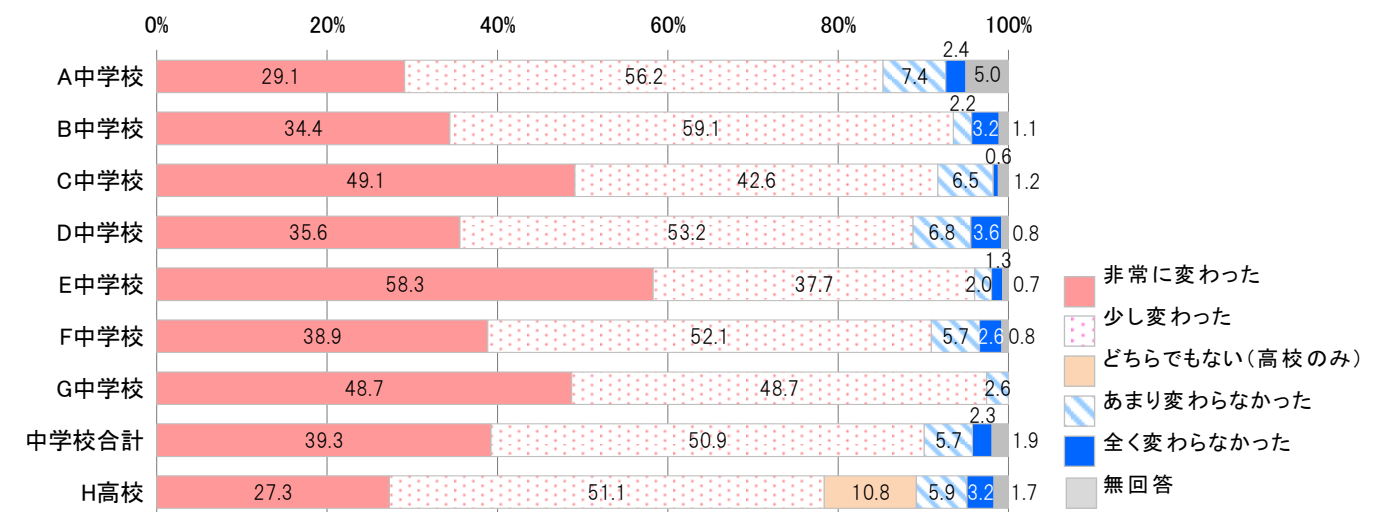
①プログラムの効果 (アンケート結果より)

問. 内容の理解度



- 「自転車の交通ルールやマナーの重要性」の理解については、「まあまあ理解できた」まで含めると96%となっている。

問. 受講後の自転車の安全利用に関する意識



- 「自転車の安全利用に関する意識」については、「少し変わった」まで含めると90%となっている。

②教える側から一言

重点を置いているところ

- ① 生徒の「知りたい」に答える内容であること
- ② 活かせる具体的話であること
- ③ 画一的ではなく、地域に密着した教材であること
- ④ 画像を多く取り入れて、分かりやすいこと
- ⑤ とにかく生徒にとって、身近な内容であること



エフ・デザイン
代表 藤本 典昭氏



プログラム名: キックバイクを用いた子ども自転車教室

対象: 幼児 小学生 中学生 高校生 大学生 社会人 高齢者
 その他

事業主体: 京都市 建設局 自転車政策推進室

市 府 国 府警 その他

実施回数: 5回

参加数: 114人

その他 ※29年度実績・11月13日現在の数値

特記事項: (内訳 市営保育所: 5回 114人)

1. プログラムの概要

①取組のねらい

- ▶ 自転車デビューを迎える幼児に、自転車に乗るための基本となる運転操作の習得
- ▶ バランス感覚などの運動能力に加え、ぶつからないように他者を思いやる気持ち等を養う。
- ▶ 楽しく、より実践的に学び身につける。



②取組の形式・内容

- キックバイクを用いたゲーム形式、屋外で実施

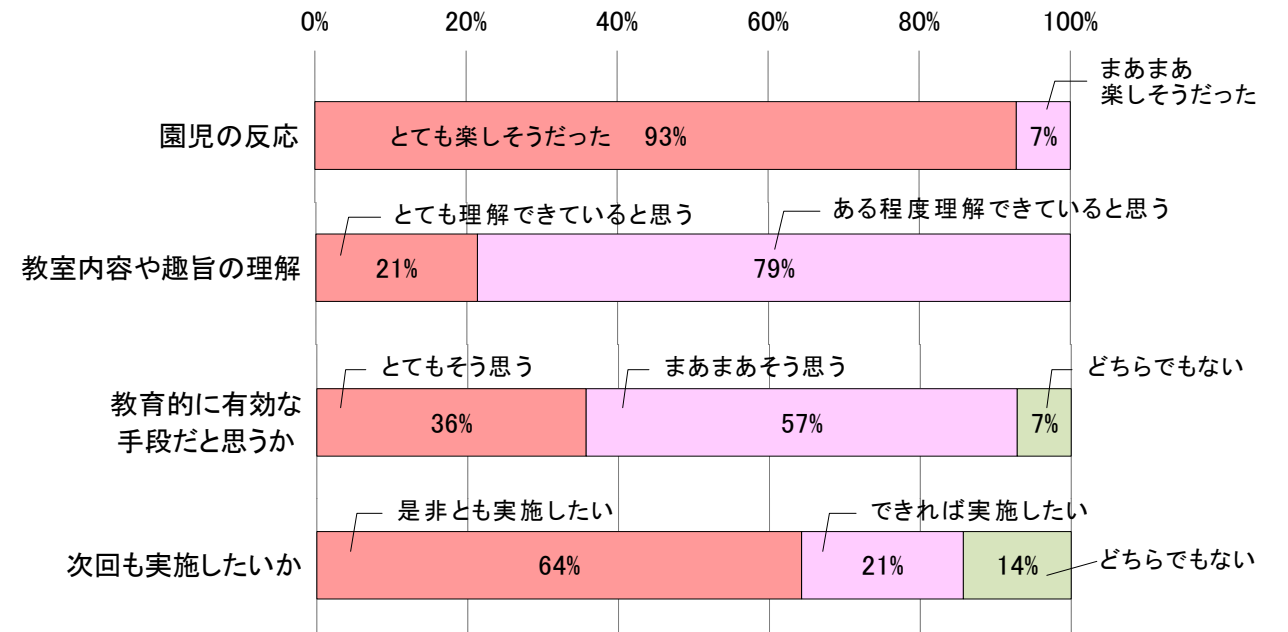
2. プログラムの特徴

- 基本事項として、「ぶつからないよう他を思いやる」「ルールを守り・順番待ちができる」「チームプレーができる」「やる気・喜び・達成感を実感する」ができるよう、幼児に合わせ、ゲームを選択し、組み立てて実施
- 子どもたちが飽きずに楽しく、技術を習得するためにゲーム感覚で実施



3. プログラムの効果・意見

①プログラムの効果（保育所職員アンケート結果より）



- 「園児の反応」については、「とても楽しそうだった」が約9割と高い。
- 教育内容や趣旨の理解については、回答すべてが「とても理解できていると思う」「ある程度理解できていると思う」となっている。
- 教育的に有効な手段かどうかについては、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」を合わせて9割以上となっている。
- 次回の実施についても、「是非とも実施したい」「できれば実施したい」を合わせて約8割以上と好意的な意見が多い。

②受講側の意見（保育所職員アンケート結果より）

- 楽しみながら自転車について学べることができた。
- キックバイクを初めて体験できた子もいて、喜んで乗っていたので良い経験になった。
- もう少し広い場所でしたかった。
- ヘルメットや手袋をつける意味なども教えてもらえたら良かったと思う。
- 継続して交通安全、ルール・マナーについて学べる機会が大切だと思う。

③教える側から一言

作成中